

会 議 録

1 会議名	平成23年度第6回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成23年11月18日(金) 午前9時00分～午前11時30分
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター大会議室
4 出席者	<p>【委員】</p> <p>太田正, 東原勸, 山口和子, 江連脩身, 神山光男, 川津昭夫, 田口利男, 手塚道子, 手塚安則, 星優美子, 谷田部喜美江, 横塚境 櫻井清一, 櫻井誠, 高橋みどり, 藤井直和</p> <p>【事務局】</p> <p>地域自治制度担当副参事, 上河内地域自治センター所長, 地域経営課長, 地域づくり課長, 保健福祉課長, 産業土木課長, 地域経営課職員</p>
5 公開・非公開	公開
6 傍聴者数	<p>【傍聴者】2名</p> <p>【記者】なし</p>
7 会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>「地域のまちづくりに関する施策の提案」について</p> <p>(1) 資料等の説明</p> <p>(2) グループ協議</p> <p>(3) 発表</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>

1 開会	
	第6回宇都宮市上河内自治会議開会
2 会長あいさつ	
	太田会長よりあいさつ
3 議事	
	「地域のまちづくりに関する施策の提案」について
会 長	<p>次第3の議事に入らせていただく。</p> <p>「地域のまちづくりに関する施策の提案」について、資料等について事務局から説明願う。</p>

事務局	<p>「提案書作成までのながれ」について説明する。</p> <p>平成24年度末の提案書提出に向け、グループ協議と全体協議を交互に行いながら提案書をまとめていく。</p> <p>「グループ協議の進め方」について説明する。</p> <p>今回の協議内容は、まず、担当するテーマの地域の現状について、地域の強み・弱みを各グループで協議していただく。また、将来予測では、今後10年間に生じると思われるチャンスとピンチについて協議していただき、協議終了後、まとめた意見を発表していただく。</p> <p>「提案書作成のイメージ」について説明する。</p> <p>提案書の作成は、今回、協議していただく現状把握と将来予測をもとに課題を抽出したうえで、10年後の目標を設定する。そして、目標を達成するための方策について決定していくという進め方である。</p> <p>「宇都宮市の地区別人口、上河内地区の人口の推移、宇都宮市の児童・生徒数の推移」について説明する。</p> <p>「宇都宮市の計画における現状の整理」について説明する。</p> <p>今回の提案のテーマである「子育て・教育」、「環境・景観・防災・上下水」、「健康・福祉」に関連した宇都宮市の計画における現状の整理について説明する。</p>
会長	<p>いろんな切り口はあると思うが、上河内地区の強みとなるところはどこか、弱みとなっているところはどこか、また、今後10年間の状況の変化として、実際の生活の中で感じていることをチャンスとしてどう活かしていくのか、このままにしておく大変なことになるかもしれないというピンチとなるような事柄はどのようなものがあるのかを考えながら、今後のまちづくりについて議論していただく。</p> <p>また、参考として、宇都宮市の各種データや宇都宮市における主な計画の中で今回のテーマがどう扱われているのか、その内容と上河内地区がどう関係するのか、上河内としての特殊性を盛り込んでいただきながら、議論の参考にしていただければと思う。</p> <p>それでは、グループ協議をお願いします。</p>
グループ協議を実施	
会長	それでは、子育て・教育グループから発表をお願いします。
委員	<p>子育て・教育グループで議論した結果を発表する。</p> <p>宇都宮市の計画における課題の整理という資料から、少子化・青少年・団塊の世代という言葉が目についた。結論から言うと、人が住む環境を良くしなければならないということであり、子どもたちを育てやすい環</p>

境を整えるということが基本的な考え方だと思う。

子育て・教育の強みは、子どもたちを含め行事に参加する人たちが多いことから「多様な行事に積極的に参加」とした。

非行が少ないのは、地域の人がパトロールを行っていることから「地域の協力がある」とした。

環境に恵まれているので食育関係などの教育がしやすいことから「自然環境が良い」とした。

進んであいさつのできる子どもが多いことから「積極的にあいさつができる子どもが多い」とした。

子育て・教育の弱みは、公園が少ないことや学校施設の整備が遅れていることから「教育施設の不備」とした。

子どもが外で遊んでいる光景が少ないことや子どもとの交流が少ないことから「地域との関わり合いが少ない」とした。

親のストレスからなる子どもへの虐待などがあることから「子育て環境の低下」とした。

いろんな技術を持った団塊の世代の方が退職し、そうした方の技術がうまく活用できていないことから「技能者の協力が不安」とした。

子育て・教育のチャンスは、温泉施設などを教育の場として有効に利用できることから「教育施設が充実」とした。

自然環境の中で教育ができることから「地域の人たちの理解が深まる」とした。

少人数での教育メリットが多くなることから「学校教育環境の充実」とした。

子育て・教育のピンチは、いろんな社会環境により、思ったように教育が受けられなくなる恐れがあることから「教育環境の悪化」とした。

地域住民全体の教育力が低下していることから「地域教育力の低下」とした。

精神的に弱い子どもが増えてきていることから「家庭環境・しつけの低下」とした。

昔に比べると体力が低下していることから「体力の低下」とした。

10年後も児童は増えないと考えられることから「子どもの減少」と

	<p>した。</p> <p>以上が、子育て・教育グループで議論した結果である。</p>
会 長	<p>ただいまの発表に対して、意見・質問はないか。</p>
委 員	<p>学校教育環境については、学校の先生が忙しくなっていることは確かであり、教育以前に問題があるのかもしれない。</p>
委 員	<p>確かに書類が多すぎると思う。子どもたちはパソコンの中でなく、自然の中において初めて子どもたちの教育ができ、IT技術の発展とともに子どもたちの精神的障がいが進んでいくのではないかと感じている。</p>
委 員	<p>学校の先生の業務が多くて、子どもに目が行き届かない現状があると思うが、昔は放課後の校庭で先生と子どもが遊んでいたと思う。そうしたところからも子どもとのふれあいが少なくなっているのではないか。</p>
会 長	<p>上河内地区に限ったことではないと思うが、非常に重要な問題であると思う。</p> <p>他に意見・質問はないか。</p>
全委員	<p>意見・質問なし。</p>
会 長	<p>それでは、環境・景観・防災・上下水グループの発表をお願いします。</p>
委 員	<p>環境・景観・防災・上下水グループで議論した結果を発表する。</p> <p>環境・景観・防災・上下水というテーマは、極めて幅広いテーマであると思う。</p> <p>環境・景観・防災・上下水の強みは、山あり川ありで自然豊かであることから「自然が豊か」とした。</p> <p>豊かな水に恵まれていることから「水がきれい」とした。</p> <p>環境・景観・防災・上下水の弱みは、見通しの悪い道路があり、極めて危ない場所があることから「生活道路の障害」とした。</p> <p>耕作が放棄されている田畑があり、現実に田畑が荒れている状況があることから「耕作放棄」とした。</p> <p>山が荒れイノシシやハクビシンによる被害が出ていることから「山林放棄」とした。</p> <p>大雨による山崩れなどに対する情報伝達の対応ができていないことから「災害対策の不備」とした。</p> <p>豊かな自然はあっても活かされていないことから「交流不足」とした。</p> <p>環境・景観・防災・上下水のチャンスは、景観活用交流が深まるよう</p>

	<p>に、たとえば西鬼怒川の両側の道路をきれいに整備することやユッピーの森を活用することができることから「景観活用交流が高まる」とした。</p> <p>間伐材などを利用できることから「代替エネルギーを増やす」とした。</p> <p>おいしい水を利用できることから「おいしい水を売る」とした。</p> <p>イノシシや熊などを罠にかけて捕らえるのではなく、山に実のなる木を植えて自分の畑まで来ないようにすることができることから「人と獣との共生」とした。</p> <p>環境・景観・防災・上下水のピンチは、耕作放棄の田畑が増加する恐れがあることから「耕作放棄地増」とした。</p> <p>獣害が増えてしまう恐れがあることから「山林放棄増」とした。</p> <p>災害時に最低のライフラインを確保できるかが心配なことから「防災対策の低下」とした。</p> <p>実際に今回の台風で道路が冠水していたこともあり、今後も大雨が降った際に冠水が想定できることやダムが決壊した場合に洪水などが心配なことから「洪水発生増」とした。</p> <p>以上が、環境・景観・防災・上下水グループで議論した結果である。</p>
会 長	ただいまの発表に対して、意見・質問はあるか。
委 員	洪水については、市で作成した洪水ハザードマップは想定外で作成しているように思える。鬼怒川が決壊した場合の避難場所でもある上河内東小学校は平地であるため、羽黒山のような高台に避難した方が良いと思うことから、洪水ハザードマップはもう一度見直しが必要である。
委 員	ユッピーの森を有効に活用するとあったが、緑水公園も有効に活用できる場所である。景観も良く、キャンプなどには使われているが、もっと充実した使い方を考えることも必要である。
委 員	<p>ダムの決壊が心配であるという意見があったが、五十里ダムは湯西川水系であり現在建設している湯西川ダムとその上に三河沢ダムがあり、2つのダムを上を抱えている。鬼怒川水系の川治ダムも川俣ダムを上を抱えており、そこで治水は行われている。また、いざという時は五十里ダムと川治ダムでの連携も取れるため、現状では決壊の恐れはないと思う。</p> <p>なお、ダムの耐用年数はなく、土砂が溜まって貯水能力がなくなるまで大丈夫であるとのことである。</p>
会 長	非常に専門的な意見で参考になったと思う。 他に意見・質問はないか。

全委員	意見・質問なし。
会 長	それでは、健康・福祉グループの発表をお願いします。
委 員	<p>健康・福祉グループで議論した結果を発表する。</p> <p>健康・福祉というテーマは皆さん非常に興味があるテーマであると思う。</p> <p>健康・福祉の強みは、住民のための温泉施設があることから「温泉施設がある」とした。</p> <p>自然環境が豊かであるという利点を活かし、取れた食物を地産地消で食べていることから「新鮮な季節の食物がある」とした。</p> <p>ユッピー号という地域バスが走っているため、外出する足が確保されていることや老人福祉センターや保健センターなどが中心部にあり、利用しやすいことから「地域バスで福祉施設を利用できる」とした。</p> <p>宇都宮市の中でも上河内地区は老人会の結成率が高く、コミュニケーションが取れる機会があり、話すことで健康になれることから「老人会の結成率が高い」とした。</p> <p>健康・福祉の弱みは、上河内地区は高齢化率が宇都宮市でも4番目に高く、とくに日中のひとり暮らしが多いことや、老人会の結成率は高いが加入率が低いことから「高齢化率が高い」とした。</p> <p>地域にはユッピー号が走っているが、乗れない方もいるということから「交流の場への足がない」とした。</p> <p>宇都宮市は、健康検診について推進していると思うが、まだまだ受診率が低いことから「健康に対する意識が低い」とした。</p> <p>健康・福祉のチャンスは、施設の利用により交流の場を充実させることができることから「施設の充実と利用の拡大」とした。</p> <p>上河内においては、非常に食育が盛んであり、小学校においては、お弁当の日があり、自分でお弁当を考え自ら作ることを実施している。また、中学校においても生徒が市のお弁当コンクールで優勝するようなお弁当を作っているなど、小学生の頃から食について教えていくことで食育の拡大につながることから「食育教育の拡大」とした。</p> <p>自然の中を歩くことで健康を増進することができることから「自然を生かした健康増進の拡大」とした。</p> <p>福祉バスやデマンドタクシーなどがあれば、高齢者が買い物や病院に自分で行けるようになることから「生活圏の拡大」とした。</p>

	<p>健康・福祉のピンチは、高齢者の方が生きがいを持ってもらう必要があるが、保健センターなどの施設がうまく活用されていないことから「生きがいの減少」とした。</p> <p>家にひとりでいると外にでるのが億劫になってしまうことから「ひきこもりの増加」とした。</p> <p>以上が、健康・福祉グループで議論した結果である。</p>
会 長	<p>「ピンチを転じてチャンスと化す」という、発想の転換につながる意見も出されたと思う。</p> <p>ただいまの発表に対して、意見・質問はあるか。</p>
全委員	意見・質問なし。
会 長	<p>それでは発表はここまでとさせていただきます。</p> <p>今回出された現状の把握として強み・弱みの両面を取り上げて整理し、今後10年の間にどのようなことが予測できるのかということで、今後の提案内容に関わるような貴重な内容が示されていると思う。</p> <p>例えば先ほどの発表にもあったが、高齢者の比率が高いということは、一般的な理解では大変であると思いがちである。しかし、高齢者は元気な方が多く、時間はたっぷりある。まして地域で培ってきた知識や体験も豊富に持っている方々であり、こうした方々をどう活かしていけるのかという視点で考えると心配以上に大きな強みになる可能性はある。そうしたことから、高齢者の方々をどう活していけるのか、そうした意識付けはどうするのか、仕組みはどうするのかという問題に捉え直すことができると思う。</p> <p>また、「施設はたくさんあるが十分に活用されていないのではないか」という意見が出されたが、上河内は自然を含め非常に大きな可能性を秘めており、上河内にある隠れた資源を再認識していただき、今後どのように活用していけるのかを考えていくことになると思う。</p> <p>最終的には、強みや弱みにどう気づき、地域の資源をどう発掘して実際に活用していくのか、そのための人々の参加や仕組みづくりをどう考えていけるのかにかかってくる。</p> <p>そういった意味でも、今後、提案内容を検討していく上で重要な第一歩になったのではないかと感じている。</p>
4 その他	
会 長	次第4の「その他」について、意見を求める。

事務局	次回の第7回上河内自治会議については、12月19日の月曜日の午後2時からを予定している。
会長	他になければ本日の議題は終了させていただく。
全委員	意見・質問なし。
5 閉会	
会長	以上で、第6回宇都宮市上河内自治会議を終了する。